



風だより



友朋会の理念 患者様のために

理念に基づく基本方針

1. 患者様一人ひとりの立場になって、提供すべき医療・福祉を考え、実践する
2. 愛情のある医療・看護・介護・リハビリを実践する
3. 患者様が真に社会（家庭）復帰できるための援助をする
4. 芸術療法を実践する
5. 治療空間としてのアメニティーを重視する
6. 地域に必要とされる医療を実践する
7. 認知症への取り組みにおいて地域のリーダーとなれるよう努力する
8. 児童・思春期の精神医学分野においてその専門性を高める
9. 院内におけるチーム医療および地域の関係諸機関との連携を強化する
10. 医療従事者として自己研鑽に精励する

職業倫理に基づく行動指針

1. 患者様の自己決定権を尊重する
2. 患者様が自己の情報を知る権利を保障する
3. 患者様がセカンドオピニオンを求める権利を保障する
4. 患者様に安全で質の高い医療を提供することに最善を尽くす
5. 患者様に医療的な説明を十分に行う
6. 患者様に治療に関する同意を確実に得る
7. 患者様の「基本的人権」を保障する
8. 患者様の尊厳を保つ
9. 患者様の終末期医療について理解を深め、その実践に努力する
10. 患者様の個人情報を守る

2007年 年頭のご挨拶



医療法人財団 友朋会
理事長 中川 龍治

明けましておめでとうございます。
2006年は社会的にも、医療界においても暗い話題が多かった年でしたが、新しい年を迎え、新しい気持ちで皆様方と一緒に前進していきたいと存じます。
どうぞ、今年もよろしくお願ひ申し上げます。

さて、今年の友朋会の目標は、次のように考えました。

- 1、「聴く耳、聴く姿、聴くところ」を育てる
- 2、結果を出せる、患者様のための治療プログラムを充実させる
- 3、「命を預かる責任」と「人としての自己責任」について考える

『聴く耳、聴く姿、聴くところ』を育てる』とは、基本的には精神科において、患者様のお話を真摯に受け止めるための心構えですので、職員の皆さんは、すでに心掛けておられるものと思います。ただ、長期に療養せざるを得ない患者様の訴えや認知症の患者様の訴えは繰り返されることが多く、なおかつ解決が難しいものです。そのため次第にただ聞いているだけで精一杯となることも多いのが実情だと思います。「聴く」は「身を入れて、耳を澄ましてきくこと」、「聞く」は「きこえてきてきく、音・声が入ること」です。我々は、患者様の声を「聴くこと」にプロであらねばなりません。そして、我々の「聴く」姿は聴いてくれている、聴いてもらっていると患者様に見えねばなりません。さらに、どんなに難しい訴えであっても、それを受け止めるための「ところ」を育てておかなければなりません。「ところ」を育てるためには、つまり、「ところのゆとり」をもつためには、「知識」と「技術」と「誠意」が必要です。このようなことを意識して、患者様、家族様、地域の方々の方に声を澄ませることができるようになりたいと思います。

2006年の目標の中に「記録力」「評価することを考えた計画、目標を立てる」ということを掲げました。1年でそのことに習熟できたとは思いませんが、さらに、その計画・目標が、結果を考えたプログラムとして機能するように努力していきたいと思います。結果は良いことばかりを想定できません。万が一のことも考えなければなりません。

また、プログラムということを強調するのは、我々が提供する作業療法、理学療法、芸術療法などの療法に、患者様に適応してもらうというよりも、患者様が「歩けるようになる」「排尿が自立できる」「他人とコミュニケーションがとれる」「日常生活において自立できる」など患者様の本来の治療・リ

ハビリ目的に、各療法をその果たせる機能によって適応させていくという患者様主体の治療のあり方を徹底したいからです。治療プログラムの作成は基本的に、医師や看護師、作業療法士、理学療法士などの仕事です。しかし、そのプログラムに必要な情報には、友朋会の職員全員の「目」が重要な意味をもつと考えます。医療人として、守秘義務、個人情報保護は重要な課題ですので、情報は慎重に扱わねばなりません。その上で、患者様、家族様をあらゆる面から客観的にとらえ、様々な情報を集約することができれば、プログラムは患者様にとって、より意味を成すものになっていくはずですが、患者様と、直接に接することが少ない事務職や施設管理課の職員の方からの情報も、そして、直接にはプログラムを立案するわけではない介護職の方でも、患者様の状態をそれぞれの立場からとらえ、その情報を集約し、活用できるということは非常に重要なことです。

私たちの医療職とは患者様の命を預かる職業です。その責任を全うするという事は非常に厳しいことですが、そのことに正面から向き合わねばなりません。ただ、私たち医療職は「自分たちに何ができるか」ということも正確に把握していなければ、助けることができる患者様をも、できなくしてしまう恐れがあります。昨年、いじめによる自殺が大きな社会問題となりました。スクールカウンセラーとして小中学校の現場に携わらせてもらっている私は、末端の教育委員会と学校現場だけに子供の命の責任を問うのは非常に厳しいことだと思っています。様々な問題が内包されているので、一概には言えません。しかし、残念ながら、そのことに対応できるシステムにはなっていないように見受けられます。それに対し、私たちの現場は、「命に対しての責任を負う現場」です。そのようなシステムになっていなければなりません。「人として、社会人としての自己責任」をもう一度、しっかりと考えること、そして、その上で医療現場や学校現場において全うせねばならない責任をもう少し明確にしていくこと、自覚していくことが求められていると考えます。

都会における求人が増え、九州では医師や薬剤師、そして、あらゆる人材が福岡に一極集中する傾向にあります。嬉野のような地理的条件では、人材確保は至難の業になりつつあります。しかし、私は創設からの理念である「患者様のために」真摯に努力を続ければ、必ず、素晴らしい仲間恵まれていくと信じています。

またこの1年、誠意をもって真摯に、みんなでひとつとなり、前を向いて、精進していきましょう。

地域医療への挑戦

～地域連携室のご紹介～

地域連携室では、友朋会の「患者様のために」という理念に基づき、地域における本院の役割を果たす為に当該診療圏の医療・福祉施設との調整や地域の皆様への情報提供を行なっております。

今回は地域の皆様に精神科・一般診療科それぞれの地域連携室の機能や役割について理解して頂く為に改めてご紹介させていただきます。

「精神科地域連携室」

精神科では「相談業務」と「院内外の関連機関との連絡・調整」を中心とした業務を行っております。「相談業務」は受診、入院に関する内容が主です。受診相談は新患・再来共に受けて、その窓口になっていますが精神科受診希望の方が増加していますので、初診の場合は事前に予約の連絡をして頂きますようお願い致します。6月からは医療機関から新患の受診予約をされた後に受診予約表をFAXするようにしました。その他の相談として、療養上の問題調整や経済問題、日常生活の過ごし方などの相談も受けています。4月より施行の障害者自立支援医療や関連制度については、患者様への申請案内及び管理等も行っております。

「院内外の関連機関との連絡・調整」では、他医療機関及び施設からの紹介及び転院時に精神科の窓口として相談を受け、退院まで院内関連部署と職員、院外機関との調整を行っております。

「一般診療科地域連携室」

一般診療科では「相談業務」と「院内外への連絡・調整」を中心とした業務を行っております。

相談の内訳としては受診や入院に関する相談、退院に関する相談、その他医療・福祉・介護に関する相談などで、患者様・ご家族が抱える様々な問題に対して解決のお手伝いをしています。

また、友朋会の窓口として当院入院・通院中の患者様が他施設への受診・検査予約をとられる際の連絡調整や他施設からの紹介、転院の連絡調整などを行っております。入院相談に関しては長時間を要する場合がありますので、できる限り事前の電話連絡をお願い致します。

今後も皆様のご意見・ご要望を頂きながら、地域の皆様と友朋会の橋渡し役となれるよう努力して参ります。是非お気軽にご活用頂きますようお願い致します。受診・入院相談に関しては下記の連絡先にご相談下さい。

【連絡先】

*精神科の受診・入院相談の場合

TEL：0954-43-0157（友朋会代表）

電話での連絡をお願いします。

*内科・泌尿器科・リハビリテーション科の受診・入院相談の場合

TEL：0954-43-0255（地域連携室直通）

FAX：0954-43-1370（地域連携室専用）

※不在の場合は0954-43-0157（友朋会代表）へご連絡下さい。

問い合わせやご相談がありましたら以下のアドレスもご利用頂きますように案内申し上げます。

E-mail：renkei@yuhokai.com



責任者	武藤雅子（看護部副部長）
精神科担当	山崎二美（精神保健福祉士）
〃	藤木省吾（精神保健福祉士）
〃	内田友代（精神保健福祉士）
一般診療科担当	山口賢介（医療ソーシャルワーカー）
〃	正司吏臣（医療ソーシャルワーカー）



海外（オーストラリア・シドニーで開催された認知症ケア基礎コース）研修報告

南2病棟師長 棧 則子

4泊6日の行程（10月3日～9日）で、オーストラリアを代表する認知症ケアで有名なハモンドケアグループの認知症サービス開発センターにおいて、認知症ケア2日間基礎研修コースを受講させて頂きました。

気候は、暑くもなく寒くもなく丁度春という感じで毎日晴天でした。特に最近雨が降らないそうで施設見学でも芝生が枯れていました。日本との時差は1時間でシドニーの方が進んでいます。

シドニーは、オーストラリア最大の都市で、経済、文化、商業の中心地。世界三大美港の一つシドニー湾、近代的高層ビル、植民地時代のレンガ造建築などが調和した英国風のコスモポリタンな町と紹介されていました。町の中をかもめが飛んでいました。中国・アジア系の方が多くほとんどのお店に日本語を話せる方が居られました。車も日本車が多く右ハンドルで、高速道路を走行している時には日本とあまり変わらないように感じました。

研修には、本院から吉本副院長、吉竹看護部長、ものわずれメンタルクリニックから早瀬主任と4名で受講させて頂きました。織田病院からも5名受講されましたが今回で3回目とお聞きしました。

日本から、すでに約1000人以上がこの研修を受講されているそうです。

2日間の研修は2名の通訳の方がおられ資料も日本語版で準備して頂いており恵まれた環境で研修させて頂きました。

1日目は講義と施設見学でした。

講義では、ケアの理念、環境、入所基準、ケアプラン、モニター、退所基準の説明や岩手県大船渡の社会福祉法人典人会「ひまわり」とハモンドケアグループメドウズとの共同プロジェクトで取り組まれた内容の紹介がありました。写真集として

出版されています。異文化でありながらもケアの理念は同じであることが説明されました。

施設見学では、ハモンド・ケア・グループが経営している認知症高齢者のための施設、「メドウズ」「パインズ」では、日本の認知症高齢者のためのグループホームと類似したケアが展開されていました。今回私たちは、パインズを見学させて頂きました。認知症高齢者のための環境原則を重視して建てられた施設と協調され、町の中にとけ込んだ造りになっていました。40



パインズ外観

で夜間は40床を1名体制で介護されているそうです。

入所者は介護度の低い方が入っておられ、食事の準備の手伝い、テレビを見ておられたり、ダーツを楽しんでおられたり、洗濯物を畳んだりとそれぞれに過ごされていました。入所者や職員の対応などは千寿荘とほとんど同じ雰囲気でした。部屋の中はトイレ・シャワーも設置してありました。

レ・シャワーも設置してありました。

照明の位置も足元が明るいように工夫しており、トイレや部屋の中央、出入り口にはセンサーが取り付けられてあり入所者の状況にあわせてセンサーが作動するようにしてあるそうです。入所者の目につかないほうがよいもので、入所者には触れてほしくない電気のスイッチや普段は使用しない衣類の収納などは壁と同じ色調や配置も工夫してありました。

2日目は、認知症のための療法&認知症高齢者とのコミュニケーションについて、合唱隊参加の取り組みについての講義でした。本院でも行っている音楽療法や回想法と同じようなもので、その人の生活史を重視した個別的対応で末期の認知症であってもコミュニケーションが図れた事例を紹介されました。私たち介護・看護するものが、いかに患者様に関心を寄せ、想いを寄せてわずかなサインを見逃さないことだと振り



集合写真

返る内容でした。

研修のコーディネーター瀬間さんの編集記に、「認知症老人のために、その失いかけた記憶の入り口を見つけ出すのが認知症ケアの1つの側面ではないかと思います。馴染みのある心地よい感情をよびさますような刺激を与えることにより記憶のネットワーク化がよみがえる。その人を熟知している介助者が、その記憶の入り口のスイッチを入れてあげると記憶が息を吹き返し豊かな生活を送る助けになるかもしれません。」と書かれています。私も同感です。今回はグループホームと類似したケアが展開されている施設の見学でしたが、ハモンド・ケア・グループで行われていることが、友朋会ではすでに機能分化されたシステムが構築されていることを改めて再認識致しました。ハモンド・ケアから織田病院（ケアコートゆうあい）の視察をされたそうですが友朋会にも来て頂きたいと思いました。

友朋会の認知症に対するあゆみを振り返ってみると、昭和48年の精神科絵画療法グループへ痴呆患者を導入したことによって始められ、昭和57年の認知症療養病棟開設を機に本格的に取り組んできた歴史があります。単に薬物療法だけでな

く看護と介護を通して行われる芸術療法も精神機能を回復させる最も有効な治療法とし実践しています。絵画・陶芸・音楽・料理や、さらに病棟行事等にも積極的に取り組んでいます。

今回の貴重な体験と自己研鑽に努め、友朋会の理念である「患者様のために」、より質の高いケアが提供できるように、認知症看護の専門職としての知識・技術の習得に微力ではありますが人材育成の役割を果たして参ります。



ディスカッションの様子



NEW FACE

平成 18 年度に入社した医師の
名前と診療科を紹介させていただきます。



えがわ いちえい
穎川 一英
内科



さかみ あきこ
酒見 安希子
精神科



こやま ぜんや
小山 善哉
歯科



いのうえ ようこ
井上 葉子
透析センター



くらとみ かずなり
倉富 一成
泌尿器科



家族懇談会報告

精神疾患は、服薬をすることにより回復できる疾患になってきたにもかかわらず、「遺伝・治らない・危険」といった誤解や偏見があります。こうした偏見を家族自身がとりはからい、精神疾患や障害に対する正しい知識を身につけることが大変重要です。

平成18年は当院の精神科の各病棟・施設にて家族懇談会が実施されました。家族懇談会とは身内に精神疾患を持つ家族が集まり、同じ悩みを話し合い、助け合う会です。

なお、各病棟で実施された家族懇親会の参加者数は次の通りです。

- ・西1病棟(精神科療養病棟) 11月11日(土) 15家族 22名様
- ・西2病棟(精神科療養病棟) 5月20日(土) 8家族 8名様
- ・中央1病棟(精神科療養病棟) 11月12日(日) 6家族 7名様
- ・精神科デイケア・ナイトケア 6月25日(日) 23家族 28名様
- 12月10日(日) 26家族 30名様

中央1病棟では病棟開設後、初めての家族懇談会を平成18年11月12日(日)に開催しました。家族会の目的「患者様の入院治療に対して理解を深める機会とする、患者様の治療に対しての協力体制を促進する」として家族様に開催の案内を差し上げました。

参加された家族様は6家族7名のご家族様でした。はじめに三根先生から患者様の入院治療に関する話がありました。その後からご家族様間で患者様のことについて日頃考えられていること、患者様への思いについて自由に意見交換がなされました。病棟の中では家族様はなかなか患者様に対する思いを看護者の方へ表出されることはなく、今回は、ご家族様が患者様について思われていることを聞くよい機会となりました。また、ご家族様間で話をする機会も今まではありませんでしたが、今回の家族懇談会ではそれぞれのご家族様の思いを知る良い機会となられたのか家族懇談会が終了した後も、名残り惜しそうに話をされていました。家族様は次回も参加したいとアンケートに記載されていましたので次年度も家族懇談会を開催したいと考えています。

TOPICS トピックス

地域美化活動（河川清掃）報告

地域美化活動副委員長 富永 佳代

平成18年11月4日(土)午前11:00、今回は天候にも恵まれ、気持ちいい環境の中で活動することができました。

友朋会職員、友悠会、嬉野温泉総合開発、三友商事、日清医療食品より総勢256名の参加数で、ビン缶類1袋、雑物12袋、一般ゴミ84袋と多くのゴミを収集することができました。春・秋美化活動が地域に根ざした活動として、友朋会に定着するよう、今後も継続して活動を実施し、内容充実を図っていききたいと思います。

秋季交通安全講習会

交通委員長 山田 浩

交通委員会では、秋季の交通安全講習会を平成18年11月7日(火)14時より当院大ホールにて職員178名の参加のもと開催いたしました。

佐賀県鹿島警察署より吉原裕隆副署長を講師としてお招きし、講演をお願いいたしました。

講演の中では、県内、鹿島署管内での交通事故状況報告、



夜間運転時の注意点、チャイルドシート着用の重要性、飲酒運転の危険性と罰則、早めのライト点灯運動の実施などについてお話いただきました。

最後に、安全運転のポイントとして「迫りくる危険をいち早く察知し、自己の限界に近づくな」と言う言葉で締めくくられました。

参加した職員は、熱心に耳を傾け、事故の恐ろしさを再認識し交通安全への意識をこれまで以上に高めることができました。

防犯講習会報告

平成19年1月11日(木)当院大ホールにて職員を対象に、不審者の侵入を想定した刺股講習会が実施されました。当日は約160名が参加し、鹿島警察署のご協力により刺股の正確で安全な使用方法について説明をいただいた後、刺股を手



実際の訓練の様子

にして不審者役の人を取り押さえる実践訓練を行いました。

実際に刺股を使用してみると警察署の方々が手本を見せていただいたように簡単に相手を取り押さえることは難しく、逆に不審者役の方

から刺股を奪われたりもしました。そこで警察署の方から効果的な使い方を教えていただき、訓練を繰り返すうちに少しずつ使い方のコツを掴むことができました。

今回の防犯講習会を通して、日頃から患者様を危険から守るべく防犯に対する意識を高め、万が一の時も冷静に対応ができ、決して一人で相手を取り押さようとは考えず、職員・警察署間の協力体制が大切だということを学ぶことができました。今後もより高い安全性が確保できるよう、防犯訓練を繰り返していこうと思います。

NEWS



体外衝撃波 結石破碎装置による治療が再開!!

平成19年1月1日付けで倉富先生が当院の泌尿器科の担当医として入社され、平成18年4月から休止していた体外衝撃波結石破碎装置を平成19年2月からいよいよ再開の運びとなりました。腎・尿管結石でお悩みの方はお気軽にご相談下さい。

柴田先生が「ねんりんピック静岡2006」で水泳部門(70才~74才)金、銀、銅メダル3個獲得!!

平成18年10月29日静岡県で開催された「ねんりんピック」で柴田龍郎先生が長崎県代表で出場されました。

50M自由形…1位(31.75秒)

25M自由形…2位(14.03秒)

200Mリレー…3位

と大健闘されました。恐るべき70歳パワーです。



診療科の紹介及び診療担当医師一覧表

診療科		月	火	水	木	金	土	日
一般外来 (東病棟)	内科 リハビリテーション科	榎	太田	竹下	林原	江口	日勤医師	
	泌尿器科	倉富	江原	倉富	江原	倉富	倉富 (第1AM)	
	眼科	(AM)佐野 (PM)銭谷		崎戸 (10時~)		崎戸 (10時~)		
精神科外来	新患	椎葉 三根	谷口 吉本	田中 谷口	三根 富松	富松 田中	日直医師 (第1AM)	予約診療 (第2、4)
	再来	富松	田中 谷口	椎葉	吉本 中山	三根 酒見		
歯科外来	歯科	小無田 小山	小無田 小山	小無田 小山 山田	小無田 小山	小無田 小山	小無田 小山 (第1AM)	

平成19年2月現在

* 診療時間 月曜～金曜 午前の部 8:30～12:30 第1土曜 8:30～12:30
午後の部 13:30～17:00

ただし、水曜、金曜の眼科外来は10:00より開始

* 休診日 第2・3・4・5土曜、日曜、祭日、年末2日、年始3日間

○ 予約診療 待ち時間短縮のため、予約診療とさせていただきます。

ただし、新患、急患の場合は随時受け付けます。

日曜診療は精神科第2、第4日曜の午前中に予約診療を行っています。

第10回友朋会アートセラピー美術館祭のご案内

地域の方々との交流を図り、更なる芸術への理解を深める機会として、アートセラピー美術館祭を開催してきました。今年で第10回を迎え、下記のような予定で開催することになりました。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

とき:平成19年3月3日(土) 入場無料

午前の部 開場9:00 開演9:30

会場 友朋会大ホール

講演「子どもの心の育ちに何が欠けてしまったのか？」

講師:山田 真理子 先生 九州大谷短期大学 幼児教育科 教授

午後の部 開場13:00 開演13:30

会場 友朋会アートセラピー美術館

第1部 ホルンとピアノのアンサンブルコンサート

演奏:鶴田 美樹、田中 大輔、高木 容子、相良 百合子、鈴木 めぐみ

第2部 篠笛コンサート 演奏:儀谷 聖翠

お問い合わせ

第10回アートセラピー美術館祭実行委員会

相川、溝口、川崎まで

TEL:0954-43-0157

FAX:0954-43-3440

E-mail:info@yuhokai.com

医療法人財団

友朋会

〒843-0394

佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919

電話 : 0954-43-0157

FAX : 0954-43-3440

E-mail : info@yuhokai.com

URL : http://www.yuhokai.com/

嬉野温泉病院 0954-43-0157

精神科デイケア・ナイトケアセンター 0954-43-0157

老人デイケアセンター 0954-43-0233

介護老人保健施設 朋寿苑 0954-42-2900

友朋会介護サービスセンター 0954-20-2531

グループホーム千寿荘 0954-43-0157

ものわずれメンタルクリニック 092-534-5151

〒815-0082 福岡市大橋2-19-20ビューアードームエレガント平尾3・4F